第2章

基本目標基本計画

基本計画の見方

基本施策の名称です。

まちづくりの分野です。

基本施策に関する全国的な動向等を記載しています。

基本施策に関する竜王町における現状や取り組み状況を記載しています。

基本施策に関する竜王町における課題を記載しています。

基本施策を実施することで、めざす姿を記載しています。

第Ⅲ部 基本計画 第2章 基本目標基本計画

1 スクスクわくわく子ども世代編

学 1 生きる力を育む 就学前教育の充実

背景

幼児期の教育は、子どもが人格形成をしていくうえで、また、心身ともに健康に育つために重要であり、小学校以降の生活や学習の基盤となります。しかし、核家族化、夫婦共働きなどによる家族とふれあう機会の減少、地域の子どもの数が少なくなったことや自然体験の減少により社会性が構築されづらくなっていることなどが課題として挙げられます。

現状

- 町内には私立の認可保育園1か所と公立の幼稚園が2か所（竜王幼稚園、竜王西幼稚園）が設置されています。
- 幼稚園では平成13年度から3歳児保育を導入しています。
- 幼稚園における預かり保育の試行を2年間実施し、平成23年度より本格実施しています。
- 就学前教育協議会を設置し、就学に向けた園児・児童との交流、教職員間の交流を行っています。
- 10か月健診時にブックスタート*を実施しており、読み聞かせ*を促進しています。

課題

- 竜王町の実態に適した幼保一体化の取り組みが求められています。
- 小一プロブレム*への対応など、保幼小の連携が必要です。
- 特別な支援を要する幼児への就学指導等の充実が求められています。
- ライフスタイルの多様化に併せ、就学前教育へのニーズも多様化しており、柔軟に対応できるよう、教職員の資質の向上が求められています。

めざす姿 ○将来の竜王町を担う子どもたち一人ひとりに「生きる力」を育むことをめざします。

目標指標

	現状 (H 22)	5年後	10年後
客観統計指標			
幼稚園・保育所の交流の場の実施回数	5回	6回	8回
町民実感指標	現状 (H 21)	5年後	10年後
学校教育の満足度	55.5%	65.0%	70.0%

*「第五次竜王町総合計画」策定のための町民意識調査(平成21年8月実施、以下「町民調査」という)の10代～50代の「学校教育」の満足度から算出した。

074

基本施策の実施状況を測る指標です。「客観統計指標」(数値的に測れるもの)と、「町民実感指標」(アンケート調査等から算出したもの)を設定しています。

基本施策に関する取り組みの
体系です。

● 施策体系

生きる力を育む
就学前教育の充実

- ① 幼稚園施設の整備・充実
- ② まちの特色を活かした幼稚園教育の充実
- ③ 保幼小の連携の充実と幼保一体化への整備
- ④ 教職員の資質の向上
- ⑤ 預かり保育の充実

実現のための取り組み

① **幼稚園施設の整備・充実**
新たな教育方法や内容に対応し、子どもが安全で快適に過ごせる環境を確保するため、施設や設備の充実を図ります。

② **まちの特色を活かした幼稚園教育の充実**
自然体験や地域のひととのふれあい体験、小・中学生、高齢者との異年齢交流などの体験機会を取り入れ、地域に開かれた幼稚園教育に取り組みながら「生きる力」の基礎の育成と竜王町への郷土愛の育成など、地域特性を活かした特色ある幼稚園教育の充実を図ります。

③ **保幼小の連携の充実と幼保一体化への整備**
幼稚園と保育所、小学校が連携を深め、就学前の子ども同士の交流の場を提供するとともに、私立保育所への指導や特別な支援を要する幼児への就学指導等の充実など、適切な就学に向けた環境づくりを図ります。

④ **教職員の資質の向上**
幼児教育の課題に柔軟に対応し、相談や適切な指導が行えるよう研修を行い、教職員の資質向上を図ります。

⑤ **預かり保育の充実**
教育時間終了後に希望者を対象として「預かり保育」を実施するとともに、幼保一体化の動向を見据えながら、子育て・親支援に取り組みます。

町民・民間の取り組み

- すべての教育の基礎となる家庭教育の充実を図ります。
- 地域の子どもは地域で育てるという意識を持って地域における子育てを実践します。
- 幼稚園等の行事や活動に積極的に参加します。
- 地域の高齢者が幼稚園に出向き、昔の遊びを教えます。

■ 関連する個別計画

- 竜王町次世代育成支援行動計画<後期>
- 竜王町教育行政基本方針

075

めざすべき姿を実現するために行政が行う取り組みを記載しています。

めざすべき姿を実現するために町民・民間に期待される取り組みを記載しています。

基本施策に関連する個別計画名です。